

CA Desktop Migration Manager

ベスト プラクティス ガイド

リリース 12.8



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社（以下「CA」）により随時、変更または撤回されることがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本ドキュメントの全部または一部を複写、譲渡、開示、変更、複本することはできません。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報です。ユーザは本ドキュメントを開示したり、
(i) 本ドキュメントが関係する CA ソフトウェアの使用について CA とユーザとの間で別途締結される契約または (ii) CA とユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に、本ドキュメントを使用することはできません。

上記にかかわらず、本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負いません。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本ドキュメントの制作者は CA です。

「制限された権利」のもとの提供: アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2013 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴは各社のそれぞれの商標またはサービスマークです。

CA Technologies 製品リファレンス

このマニュアルセットで参照されている CA 製品は、以下のとおりです。

- CA Advantage® Data Transport® (CA Data Transport)
- CA ARCserve® Backup for Laptops and Desktops
- CA Asset Intelligence
- CA APM (CA Asset Portfolio Management)
- CA Common Services™
- CA DMM (CA Desktop Migration Manager)
- CA Embedded Entitlements Manager (CA EEM)
- CA NSM (CA Network and Systems Management)
- CA Patch Manager
- CA Process Automation
- CA MDM (CA Mobile Device Management)
- CA Service Desk Manager
- CA WorldView™
- CleverPath™ Reporter

CA への連絡先

テクニカル サポートの詳細については、弊社テクニカル サポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

目次

第 1 章: ベスト プラクティス	7
アクセス権.....	7
インストールパス.....	7
第 2 章: マイグレーション方法の計画	9
[遅延マイグレーション]	9
リアルタイム マイグレーション	10
クロスオーバー ケーブルを使用してユーザをマイグレートするための要件.....	10
クロスオーバー ケーブルを使用したユーザのマイグレーション	11
クロスオーバー ケーブルを使用してリダイレクトする場合の注意事項.....	12
FIPS 140-2 のサポート	12
マイグレーション方法および FIPS 準拠	13
サポートされている FIPS モード	14
FIPS 準拠の暗号化による DNA ファイルの保護	16
アクセス権とアクセス許可	17
すべてのアプリケーションとサービスを閉じる	17
開いているファイルのマイグレーション	18
開いているファイルのマイグレーションに関する注意事項	18
ドライブの動的な除外	19
フィルタ: ディレクトリ構造を保持する	20
フィルタ: 上書き	21
フィルタ: 追加、除外、フォルダの除外、および常に除外	22
追加フィルタの作成.....	22
除外フィルタの作成.....	23
除外する条件の指定.....	24
常に除外する条件の指定.....	24
テンプレートによる選択適用処理の作成	25
複数のテンプレートのマージまたは選択	26
テンプレートのマージ.....	27
複数のテンプレートの選択.....	27
第 3 章: 復元の管理	29
DMM タスクのスケジュール.....	29

スケジュール済みの DMM タスクの表示	30
ストレージから DNA を適用	30

第 4 章: 時間とリソースを最適化するヒント 33

複数ユーザのマイグレーション時間の短縮	33
複数のユーザの検出オプション	35
検出スクリプトの設定の変更	35
ローカルドライブからの CA DMM へのアクセス	36
スクリプトディレクトリ オプション	36
カスタム スクリプトの直接インストール	37
DMM Director を使用したカスタム スクリプトのインストール	37
ローカルドライブからのファイルの作成と適用	38
圧縮の無効化	38
検証の無効化	39
ローカルドライブへのアンドゥ ログの作成	40
アンドゥ ログの無効化	41
ドメインユーザプロファイルの認証の無効化	42
マニフェストログの無効化	43
デバッグ ログの無効化	44
ネットワーク ログの無効化	45
イベント ログ レベルの設定	46
自己解凍ファイルを作成しない	47
グループ メンバシップのマイグレーションの無効化	47

第 1 章: ベスト プラクティス

CA DMM は、包括的ソリューションです。オペレーティング システムの設定、アプリケーションの設定、およびデータ ファイルをマイグレート、置換、復元します。これらのデータを総称して **DNA** と呼びます。

このマニュアルでは、企業のマイグレーション処理の計画と構成について説明します。また、CA Technologies テクニカル サポートに寄せられる一般的な質問に対する回答も紹介します。

これ以降のトピックでは、企業環境に最適なマイグレーション処理を作成する方法について説明します。各トピックでは、CA DMM マイグレーションを効率的に構成するために役立つベスト プラクティスを紹介しています。

アクセス権

[スタート] メニューから [スタート] - [プログラム] - [CA] - [Desktop Migration Manager] と選択して、CA DMM を開きます。[スタート] メニューのパスから、どのオプションを開くこともできます。

インストール パス

デフォルトでは、CA DMM は C:\Program Files\CA\Desktop Migration Manager にインストールされます。ドキュメント全体を通じて、このパスをインストールパスと呼びます。

第 2 章: マイグレーション方法の計画

CA DMM では、2 種類のマイグレーションがサポートされています。

[遅延マイグレーション]

ソース システム (古いコンピュータ) の DNA ファイルが作成された後で、デスティネーション システム (新しいコンピュータ) に適用されます。

DNA ファイルには、アプリケーション設定と、個々のユーザまたは複数のユーザのデータを含めることができます。

リアルタイム マイグレーション

ソース システム (古いコンピュータ) とデスティネーション システム (新しいコンピュータ) を同一のネットワーク上に配置します。2 つのシステムをクロス ケーブルで直接接続してもかまいません。

2 つのシステムがリアルタイムで接続され、DNA は中間ストレージを使用せずにソースからデスティネーションに直接移動されます。

どちらのマイグレーション方法を使用する場合も、CA DMM はシステムのハードディスク ドライブにインストールすることも、ネットワーク経由でアクセスすることもできます。

[遅延マイグレーション]

以下の状況に 1 つ以上当てはまる場合は、遅延マイグレーションを使用すると効果的です。

- ソース システムとデスティネーション システムが同じハードウェアを使用している場合。ソース システムは、新しいオペレーティング システム/アプリケーションによって完全に置き換えられます。
- DNA ファイルを、ストレージ デバイス (別のシステム、サーバ (ファイル サーバ、ネットワーク アプライアンス、または Apache Web サーバなど)、リムーバブル メディア、または DNA ファイルを保存して後で取得できるその他のソースなど) に作成して保存できる場合。

リアルタイム マイグレーション

以下の状況に1つ以上当てはまる場合は、リアルタイム マイグレーションを使用すると効果的です。

- 同じネットワーク上にある2つのシステム間でマイグレーションを行う場合
- クロスオーバー ケーブル経由で互いに直接接続が可能な2つのシステム間でマイグレーションを行う場合
- 2つのシステムのハードウェアとオペレーティング システムが異なる場合

この方法は、ハードウェア、オペレーティング システム、アプリケーションなどを新しいものに交換する場合に最適なソリューションです。

クロスオーバー ケーブルを使用してユーザをマイグレートするための要件

クロスオーバー ケーブルを使用してリアルタイム マイグレーションを実行するときは、ローカル ユーザを除くすべてのユーザ アカウントが孤立したアカウントになります。孤立したアカウントとは、マイグレーションのときに解決できないユーザ アカウントのことです。したがって、クロスオーバー ケーブルを使用したマイグレーション時には、ドメインと **Active Directory** のすべてのユーザ アカウントが孤立したアカウントになります。これは、2台のコンピュータがネットワークではなく互いに直接接続されているために、ユーザ アカウントが解決できないためです。

そのため、デスティネーションマシンにマイグレートするすべてのユーザのユーザ プロファイルを作成してから、クロスオーバー ケーブルを使用したリアルタイム マイグレーションを行う必要があります。デスティネーションシステムをネットワークに接続し、**Windows** 標準の管理ツールを使用して、デスティネーションマシンに同一のユーザ プロファイルを作成してください。

クロスオーバー ケーブルを使用したユーザのマイグレーション

クロスオーバー ケーブルを使用したマイグレーション中に Windows ドメインと Active Directory ユーザ プロファイルをマイグレートできます。

クロスオーバー ケーブルを使用してユーザをマイグレートするには、以下の手順に従います。

1. デスティネーション マシンをネットワークから切断する前およびクロスオーバー ケーブルを使用したマイグレーションを開始する前に、デスティネーション マシン上にすべてのユーザ プロファイルを作成します。
2. [スタート] メニューから DMM Options Editor を開きます。
DMM Options Editor が開きます。
3. [開く] ツールバー ボタンをクリックし、CA DMM のインストール場所に移動して DNAOptions.dox を選択します。
DMM Options Editor でファイルが開きます。
4. [ユーザ プロファイル] ブランチをクリックします。
ユーザ プロファイル ページが表示されます。
5. [既存のプロファイルを使用してユーザの移動先を解決する] をオンにします (デフォルトではオフです)。
6. [保存] ボタンをクリックしてから、DMM Options Editor を閉じます。

このオプションを設定すると、孤立したユーザ プロファイルをデスティネーションの対応するユーザ プロファイルにマイグレートできます。このオプションを設定せずに、クロスオーバー ケーブルを使用したマイグレーション (またはユーザ アカウントの解決が不可能なマイグレーション) を実行する場合、未解決のアカウントは作成されず、これらのユーザはマイグレーションされません。

クロスオーバー ケーブルを使用してリダイレクトする場合の注意事項

デスティネーション マシンのユーザを異なるユーザ名、および Windows ドメインまたは Active Directory のアカウントにリダイレクトすることもできます。ただし、リダイレクトする各ユーザを明示的に指定する必要があります。

DMM オプション ファイルで [既存のプロファイルを使用してユーザ デスティネーションを解決する] オプションをオンにした場合、ユーザのマイグレーションは以下のように、ネットワークのマイグレーションとは異なる方法で処理されます。

- ワイルドカードを使用すると、既存のプロファイル アカウント パスのみが解決されます。
- 既存のプロファイルのみが照合されるため、アカウントやプロファイルは作成されません。
- 既存のプロファイルと一致しないユーザはマイグレートされず、イベント ログにエラーが記録されます。

ソース ドメイン ユーザをデスティネーションのローカル ユーザにリダイレクトする場合、ユーザをドメイン名ではなくローカル コンピュータ名でリダイレクトする必要があります。

したがって、クロスオーバー マイグレーションでは、ほとんどのプロファイル アカウントのパスにはドメインが不明と表示されます。これは、マイグレーション処理で、ドメインまたは Active Directory の認証ができないためです。このため、デスティネーションパスとして *¥* を指定すると、最適な結果が得られます。

FIPS 140-2 のサポート

FIPS PUB 140-2 (Federal Information Processing Standard Publication 140-2) は、暗号モジュールの認証に使用される米国政府のコンピュータ セキュリティ 標準規格です。この標準は、NIST (National Institute of Standards and Technology) によって発行および管理されています。

FIPS 140-2 認証を受けた暗号モジュールを FIPS 認証を受けたモードで使用しているコンピュータ製品は、FIPS によって認証されたセキュリティ機能 (AES (Advanced Encryption Algorithm)、SHA-1 (Secure Hash Algorithm) など)、および FIPS 140-2 標準および実装ガイドで明示的に許可された上位プロトコル (TLS v1.0 など) のみを使用できます。

CA ITCM の暗号機能は、以下の側面を処理します。

- パスワードのストレージおよび検証
- CA 製品コンポーネント間、および CA 製品とサードパーティ製品間のすべての機密データの通信

FIPS 140-2 は、取り扱い注意ではあるが機密扱いではないデータを保護するセキュリティシステムの中で暗号アルゴリズムを使用するための要件を規定しています。

CA ITCM は、FIPS 準拠の暗号技術をサポートしています。CA ITCM には、RSA BSafe および Crypto-C ME v2.1 暗号ライブラリが組み込まれています。これらは、FIPS 140-2 の暗号モジュールセキュリティ要件を満たしていることが確認されています。

マイグレーション方法および FIPS 準拠

CA DMM はリアルタイムおよび遅延マイグレーションを実行しつつ、FIPS 140-2 標準に準拠します。

リアルタイム マイグレーション

FIPS 準拠の暗号化を使用して、以下の情報を保護します。

- ソースとデスティネーションのコンピュータ間で転送されるデータ
- デスティネーション コンピュータからソース コンピュータに転送されるパスワード

遅延マイグレーション

FIPS 準拠の暗号化を使用して、DNA ファイルに格納されたすべてのデータを暗号化するオプションを提供します。このオプションは、DNA ファイルを作成するときに設定できます。

サポートされている FIPS モード

CA DMM は、「FIPS 推奨」と「FIPS のみ」の 2 つのモードによる FIPS 準拠の暗号化をサポートしています。FIPS モードは、CA DMM のインストール中に選択できます。FIPS モードを後で変更する場合は、CA DMM を再インストールし、必要な FIPS モードをインストーラで選択する必要があります。

FIPS のみ

FIPS 準拠の暗号化のみが許可されることを指定します。このモードは下位互換ではないため、CA DMM の旧リリースを使用して作成されたパスワード保護 DNA ファイルにはアクセスできません。

FIPS 推奨

FIPS 準拠の暗号化が推奨されることを指定します。このモードは下位互換であるため、CA DMM の旧リリースを使用して作成されたパスワード保護 DNA ファイルにアクセスできます。ただし、コンピュータに CA ITCM がインストールされている場合、CA DMM は CA ITCM と同じ FIPS モードで動作します。たとえば、FIPS 推奨モードが選択されている場合でも、CA ITCM が FIPS のみモードで動作していれば、CA DMM も FIPS のみモードで動作します。コマンドライン オプションを使用すると、CA DMM が CA ITCM の FIPS モードを無視するように設定できます。詳細については、「リファレンス ガイド」を参照してください。

デフォルトの FIPS モードは FIPS 推奨モードで、動作モードは以下の表に基づいて実行時に決定されます。

CA DMM のインストール	CA ITCM が FIPS のみモードの場合	CA ITCM が FIPS 推奨モードの場合
CA DMM は FIPS のみモードでインストールされたか、/FO オプションが CLI によって設定された	FIPS のみモードで実行	FIPS のみモードで実行
CA DMM は FIPS 推奨モードでインストールされたか、/IFM オプションが CLI によって設定された	FIPS 推奨モードで実行	FIPS 推奨モードで実行
CA DMM は FIPS 推奨モードでインストールされ、/IFM オプションが CLI によって設定されなかった	CA ITCM と同じ FIPS モード (FIPS のみモード) で実行される	CA ITCM と同じ FIPS モード (FIPS 推奨モード) で実行される

FIPS のみモードの動作

組織全体で CA DMM を FIPS のみモードで動作させるには、CA DMM を FIPS のみモードでインストールする必要があります。CA DMM を共有の場所から実行する場合は、CA DMM が常に FIPS のみモードで作動するように、以下のいずれかを実行する必要があります。

- オプションファイルで、CLI によって他の関連オプションと共に /FIPSONLY スイッチを指定します。このスイッチの詳細については、「リファレンスガイド」を参照してください。
- CA DMM がインストールされているコンピュータで、CA ITCM が FIPS のみモードでインストールされていることを確認します。
- 共有フォルダ内の Settings.xml ファイルが FIPS のみモードのインストールのものであることを確認します。
- Options Editor を使用して、FIPS のみモードを選択します。詳細については、Options Editor のヘルプを参照してください。

FIPS のみモードに切り替える方法

FIPS 準拠の暗号化を使用する場合、FIPS 推奨モードから FIPS のみモードに切り替えることができます。FIPS のみモードに切り替えるには、以下の手順のいずれかを実行します。

- CLI によって /FIPSONLY オプションを指定します。
- インストールされている CA ITCM の FIPS モードを FIPS のみモードに変更します。
- CA DMM を再インストールし、FIPS のみモードを選択します。
- CA DMM の install_path 内の Settings.xml ファイルを変更して、FIPS のみモードのインストールの Settings.xml ファイルと一致させます。

注: FIPS のみモードに切り替えたら、即座にバックアップを取ることをお勧めします。CA DMM の旧リリースで作成されたパスワード保護 DNA ファイルを開くことができなくなるためです。

FIPS 推奨モードに切り替える方法

CA DMM の旧リリースで作成されたパスワード保護 DNA ファイルを開く必要がある場合は、FIPS のみモードから FIPS 推奨モードに切り替えることができます。FIPS 推奨モードに切り替えるには、以下の手順のいずれかを実行します。

- CA DMM を再インストールし、FIPS 推奨モードを選択します。
- CA DMM の install_path 内の Settings.xml ファイルを変更して、FIPS 推奨モードのインストールの Settings.xml ファイルと一致させます。

FIPS 準拠の暗号化による DNA ファイルの保護

DNA ファイルのデータを保護するには、FIPS 準拠の暗号化を使用します。DNA ファイルを暗号化すると、許可されたユーザまたはプログラムのみが DNA ファイルを開いて適用できるようになります。

FIPS 準拠の暗号化を使用して DNA ファイルを保護するには、以下の手順に従います。

1. CA DMM を開きます。
[DMM タスクの選択] ページが表示されます。
2. [作成] をクリックします。
[マイグレーションするユーザの選択] ページが表示されます。
3. ウィザードの手順に従って、[DNA ファイルに格納] ページまで進みます。
4. [DNA ファイルに格納] ページで、[詳細] をクリックし、[FIPS 準拠技術を使用してデータを暗号化する (最も安全)] を選択します。
[キー パスを入力] ボタンが有効になります。
5. [キー パスを入力] をクリックして、暗号鍵を格納する場所を指定します。
指定された場所が暗号鍵の格納場所として設定されます。DNA ファイルを開くか、適用するにはこの鍵が必要となります。
6. [OK] をクリックします。
設定が保存されます。
7. [次へ] をクリックします。
[処理が完了するまでお待ちください] ページが表示されます。
8. [Start Store] をクリックします。

マイグレーションプロセスは、FIPS 準拠の暗号化を使用してデータを格納および暗号化します。マイグレーションが完了したら、暗号化された DNA ファイルおよび暗号鍵は、DNA ファイルの作成中に指定した場所に格納されます。

アクセス権とアクセス許可

マイグレーションを実行するときは、管理者権限を持つユーザでログインするのが最良です。マイグレーションの内容は、マイグレーション処理ごとに異なるので、管理者権限がないと使用できない機能があることに注意してください。

以下の機能をマイグレーション中に実行する場合は、管理者権限でサインオンする必要があります。

- クロスオーバー ケーブルを使用したマイグレーション（2 台のシステムをクロスオーバー ケーブルで直接接続する場合）
- NTFS（ファイルとフォルダの）セキュリティ設定のマイグレーション
- グループセキュリティのマイグレーション
- 複数のユーザのマイグレーション、および 1 人以上のユーザを新規ドメインまたは異なるドメインにマイグレートする場合

新規ドメインまたは異なるドメインにユーザをマイグレートする場合、ドメイン管理者権限が必要です。正しいアクセス レベルで操作を実行すれば、新しいシステムにユーザを作成できます。

- プリンタのマイグレーションでは、少なくともパワー ユーザ権限が必要
- アプリケーションのマイグレーション（アプリケーション自体がマイグレートされる場合）
- Netscape ユーザ プロファイルの設定など、エンドユーザが手動で変更できないユーザ設定のマイグレーション（管理者以外のユーザは、HKEY_LOCAL_MACHINE レジストリ アイテムの設定を変更できません）
- 自己解凍 DNA ファイルの適用

注：DMM Options Editor を使用するには、管理者またはパワー ユーザとしてサインオンする必要があります。ただし、アクセス権がなくても、XML 形式の DMM オプションをメモ帳などのエディタで編集できます。

すべてのアプリケーションとサービスを閉じる

マイグレーション中は、CA DMM 以外のアプリケーションを終了してください。CA DMM で利用できるローカル リソースの量が増えると、最高のパフォーマンスが得られます。マイグレーションのパフォーマンスに大きく影響するのは、ウイルス スキャナなど、アクセス制御を試みるアプリケーションです。

展開ツール、アプリケーション ラップ、評価ツール、その他のマイグレーション処理アプリケーションまたはツールは、マイグレーションの実行にほとんど影響しません。

開いているファイルのマイグレーション

CA DMM は、開いていてロック中のファイルのマイグレーションをサポートをしています。開いていてロック中のファイルのマイグレーションを使用すると、マイグレーションを開始する前に対応するアプリケーションを閉じる必要がなくなります。その結果、作業の中断が発生せず、マイグレーションの実行中でもファイルを使用できます。

開いていてロックされているファイルのマイグレーションは、遅延マイグレーションモードおよびリアルタイムマイグレーションモードを使用して実行できます。遅延マイグレーションモードでは、開いていてロック中のファイルを .dna ファイル（または自己解凍ファイル）にバックアップします。リアルタイムマイグレーションモードでは、開いていてロック中のファイルをソースコンピュータからデスティネーションコンピュータに直接マイグレートします。

注: CA DMM は、32 ビットおよび 64 ビット Windows XP、Windows Vista、および Windows 7 オペレーティングシステム上での開かれ、ロックされているファイルのマイグレーションをサポートしています。

開いているファイルのマイグレーションに関する注意事項

開かれ、ロックされているファイルをマイグレートするときには、以下の事項を注意してください。

- マイグレーションの実行中、デスティネーションコンピュータでファイルが開いていることが発見された場合、ファイルはマイグレーション対象として考慮されません。たとえば、.ppt ファイルがデスティネーションコンピュータで開いている場合、その .ppt ファイルはマイグレートされません。

イベントログには、デスティネーションコンピュータで開いているためマイグレートされなかったすべてのファイルに関する情報が記録されます。このコンテキストでは、UI メッセージは表示されません。

- CA DMM が開かれ、ロックされているファイルのマイグレーションに失敗し、イベントログにエラーを記録した場合、以下の手順に従ってエラーを修復できます。
 - Volume Shadow Copy Service (VSS) およびその依存関係が無効になっていないことを確認します。
 - Microsoft の Web サイトで、トラブルシューティングに関する記事 (<http://support.microsoft.com/kb/940184>) を参照します。
- FAT32 システムのバックアップは、同じディスクに少なくとも 1 つの有効な NTFS パーティションが存在する場合のみ可能です。

ドライブの動的な除外

マイグレーション処理からドライブ タイプを動的に除外できます。CA DMM では、フィルタ処理やスクリプト処理で指定されたファイルとフォルダは、マップされたネットワーク ドライブやリムーバブル ドライブなどにある場合でもマイグレートされます。

ドライブの動的な除外例は以下のとおりです。

- ユーザは自分の PC にマップされているネットワーク ドライブにメインの .pst ファイルを格納し、さらにローカルに他の .pst ファイルを格納しているとします。移動するのはローカルに保存されている .pst ファイルだけです。ネットワーク ドライブに置かれているファイルはマイグレートしません。 .pst ファイルは Microsoft Outlook のスクリプトによって移動されるので、除外フィルタを作成するだけでは不十分です。除外するドライブを入力する必要があります。
- DNA ファイルを Flip2Disk に保存するマイグレーション処理を作成し、このドライブをマイグレーション処理に含めないようにします。
- UNC パスもマイグレーション処理に含めません。

この機能をサポートするために、Desktop DNA の exclude.dnax ファイルでは以下の変数を使用できます。

%DNA_FIXED_DRIVES%

すべてのローカル ドライブをマイグレーションから除外します。

%DNA_REMOVABLE_DRIVES%

すべてのリムーバブル ドライブをマイグレーションから除外します。

%DNA_NETWORK_DRIVES%

すべてのネットワーク ドライブとネットワーク上の場所をマイグレーションから除外します（マップされたドライブ）。

%DNA_DDNA_DRIVE%

CA DMM を実行しているドライブを除外します。これで、リムーバブルフラッシュ RAM、Flip2Disk、およびその他のアイテムをマイグレーション処理から除外できます。

%DNA_UNC_PATHS%

UNC パスをマイグレーションから除外します。

%DNA_DDNARUN_FOLDER%

CA DMM を実行しているパスをマイグレーション処理から除外します。

これらの特殊変数を使用して、サブディレクトリとファイルを指定できます。

.pst の例に戻ると、.pst ファイルが格納されている可能性のあるネットワークドライブを除外するには、Desktop DNA exclude.dnax ファイルに以下のエントリを含めます。

```
%DNA_NETWORK_DRIVES%¥Outlook¥*.pst
```

Desktop DNA exclude.dnax ファイルにこれらの変数を含めるには、以下の手順に従います。

1. CA DMM がインストールされているコンピュータで Windows エクスプローラを開き、以下のファイルに移動します。

```
installation path¥Desktop DNA exclude.dnax
```

2. Desktop DNA exclude.dnax ファイルを右クリックし、[開く] または [プログラムから開く] - [Notepad] を選択します。

メモ帳が開きます。

3. ファイルの終わりまでスクロールします。
4. 除外するドライブを入力します。
5. [ファイル] メニューから [上書き保存] を選択します。
6. メモ帳を閉じます。

マイグレートするすべてのユーザについて、変数で指定したドライブが除外されます。

フィルタ: ディレクトリ構造を保持する

フィルタを使用してファイルをマイグレートする場合は、フィルタの内容をデスティネーションの新しい場所にリダイレクトできます。フィルタを宛先にリダイレクトする場合は、DMM Template Editor でマイグレーションテンプレートを作成するときに、以下の手順に従います。

1. [フィルタ] をクリックし、[名前と種類]、[日付とサイズ]、および [リダイレクト] タブでフィルタ基準を定義します。

各タブをクリックすると、そのタブで使用可能なフィールドが表示されます。

2. [リダイレクト] タブの [次のフォルダにリダイレクトする] チェックボックスをオンにし、このフィルタでマイグレートされるファイルを保存する新しいパスを指定します。

3. ファイルのディレクトリ構造を保持する場合は、[ディレクトリ構造を保持する] チェック ボックスをオンにします。

[ディレクトリ構造を保持する] オプションを使用すると、マイグレートされたファイルがソース マシンと同じパスに保存されます。たとえば、ソース システムのすべての*.hlp ファイルを保存するフィルタが DNA ファイルに定義されているとします。このフィルタをデスティネーションの C:¥Help にリダイレクトする場合、選択内容に応じて以下のような結果になります。

- [ディレクトリ構造を保持する] オプションをオンにした場合、ファイルは インストールパス¥DesktopDNA.hlp に保存されます。
- [ディレクトリ構造を保持する] オプションをオフにした場合、ファイルは C:¥Help¥DesktopDNA.hlp に保存されます。

注: [ディレクトリ構造を保持する] オプションをオフにした場合は、[上書き] オプションを使用して、ファイルが重複した場合の動作を制御する必要があります。

4. [フィルタの作成] をクリックします。

フィルタ: 上書き

上書きオプションでは、重複しているファイルを上書きする条件を指定します。2つの上書きオプションが用意されています。

マイグレーションの上書き

DNA ファイルにリビジョンが含まれていない環境でマイグレーションを実行するときに、重複しているファイルを上書きする条件を指定します。有効な値は [常時]、[新規]、または [なし] です。デフォルト値は [新規] です。

リビジョンの上書き

リビジョンを含む DNA ファイルを適用するときに、重複しているファイルを上書きする条件を指定します。有効な値は [常時]、[新規]、または [なし] です。デフォルト値は [常時] です。

上書きオプションを [新規] に設定すると、重複が発生した場合、DNA はファイルのバージョンをチェックして一番新しいファイルを判別します。ファイルのバージョンが重複している場合は、ファイルバージョンを追加して保存します。たとえば、同じバージョン番号の 2つの Expenses.xls ファイルが存在する場合は、ファイル名をそれぞれ Expenses01.xls と Expenses02.xls に変更して保存します。

上書きオプションを [常時] に設定すると、CA DMM は DNA ファイルに含まれているファイルを常に適用します。

フィルタ: 追加、除外、フォルダの除外、および常に除外

アプリケーションに関連付けられたデータ ファイルおよびドキュメント拡張子に対するフィルタを作成できます。CA DMM では、ワイルドカード、日付、サイズ、および場所によるフィルタを処理できます。フィルタは、追加、除外、またはフォルダの除外フィルタとして定義できます。除外フィルタは追加フィルタより常に優先されます。

フィルタ条件やフィルタのリダイレクトには環境変数や DMM 変数を使用できます。

追加、除外、およびフォルダの除外フィルタ条件では、以下の点に注意してください。

- 追加フィルタでは、定義したフィルタ条件と一致するファイルが追加されます。
- 除外フィルタでは、ファイルの選択方法にかかわらず（フィルタで追加されたファイルや [ファイルとフォルダの選択] ページで直接選択されたファイルなど）、フィルタ条件と一致するファイルがマイグレーションから除外されます。
- フォルダの除外フィルタでは、関連付けられているフィルタから除外する条件を定義します。
- 常に除外フィルタでは、定義されたディレクトリがすべてのフィルタ処理から除外されます。

追加フィルタの作成

追加フィルタを作成して、定義したフィルタ条件と一致するファイルを追加することができます。DMM Template Editor を使用して、追加フィルタを作成できます。

追加フィルタを作成するには、以下の手順に従います。

1. [スタート] メニューから DMM Template Editor を開きます。
DMM Template Editor が開きます。

2. [フィルタ] ブランチをクリックします。
[フィルタ] ページが表示されます。デフォルトでは、[追加フィルタ] が選択されています。[名前と種類]、[日付とサイズ]、または[場所] の3つのタブを使用して、条件を定義できます。作成したフィルタにより、定義した条件を満たすすべてのファイルが追加されます。
3. フィルタの定義が完了したら、[フィルタの作成] をクリックします。
フィルタが、マイグレーションのフィルタ リストに追加されます。

除外フィルタの作成

除外フィルタでは、ファイルの選択方法にかかわらず（フィルタで追加されたファイルや[ファイルとフォルダの選択] ページで直接選択されたファイルなど）、フィルタ条件と一致するファイルがマイグレーションから除外されます。DMM Template Editor を使用して、除外フィルタを作成できます。

除外フィルタを作成するには、以下の手順に従います。

1. [スタート] メニューから DMM Template Editor を開きます。
DMM Template Editor が開きます。
2. [フィルタ] ブランチをクリックします。
[フィルタ] ページが開きます。
3. [除外フィルタ] オプション ボタンをクリックします。
[名前と種類]、[日付とサイズ]、または[場所] の3つのタブを使用して、条件を定義できます。作成したフィルタにより、定義した条件を満たすすべてのファイルがマイグレーション処理から除外されます。

注: 除外フィルタは、マイグレートするファイルが選択された場所に関係なく、フィルタ条件を満たすファイルをマイグレーション処理から除外します。たとえば、マイグレーションからすべての .mp3 ファイルを除外するフィルタを作成した場合、[ファイルとフォルダの選択] ページで明示的に .mp3 ファイルを選択しても、.mp3 ファイルはマイグレートされません。
4. [フィルタの作成] をクリックします。
フィルタが、マイグレーションのフィルタ リストに追加されます。

除外する条件の指定

フォルダの除外フィルタでは、関連付けられているフィルタから除外する条件を定義します。DMM Template Editor を使用して、フォルダの除外フィルタを作成します。

除外する条件を指定するには、以下の手順に従います。

1. [スタート] メニューから DMM Template Editor を開きます。
DMM Template Editor が開きます。
2. [フィルタ] ブランチをクリックします。
[フィルタ] ページが表示されます。
3. [場所] タブをクリックします。
[場所] タブの各種フィールドが表示されます。
4. [除外するフォルダ] グループ ボックスの [追加] をクリックします。
[フォルダの除外] ダイアログ ボックスが表示されます。
5. [除外するパス] フィールドにパスを入力するか、または [参照] ボタンを使用して、フィルタの検索から除外するフォルダのパスを指定します。

注: 指定したフォルダのサブフォルダをフィルタの検索から除外しない場合は、[すべてのサブフォルダを除外する] チェック ボックスをオフにします。

6. [フィルタの作成] をクリックします。
作成したフィルタによって、除外するパス以外のすべてのフォルダが検索され、定義した条件と照合されます。この除外条件は、定義したフィルタのみに適用される固有の条件になります。

常に除外する条件の指定

常に除外フィルタでは、定義されたディレクトリがすべてのフィルタ処理から除外されます。DMM Template Editor を使用して、常に除外フィルタを作成します。

常に除外する条件を指定するには、以下の手順に従います。

1. [スタート] メニューから DMM Template Editor を開きます。
DMM Template Editor が開きます。
2. [フィルタ] ブランチをクリックします。
[フィルタ] ページが表示されます。

3. [常に除外] をクリックします。
[常に除外するフォルダ] ダイアログ ボックスが表示されます。
4. [追加] をクリックします。
[フォルダの除外] ダイアログ ボックスが表示されます。
5. [除外するパス] フィールドにパスを入力するか、またはフォルダのパスに移動して、フィルタの検索から除外するパスを指定します。
注: 指定したフォルダのサブフォルダをフィルタの検索から除外しない場合は、[すべてのサブフォルダを除外する] チェック ボックスをオフにします。
6. [OK] をクリックします。
定義した除外パスが [常に除外するフォルダ] リストに追加されます。 [常に除外] をクリックすると、このリストを表示できます。
注: フィルタ処理から除外するパスは、複数追加できます。
[常に除外] フィルタによって、定義したパスがすべてのフィルタ処理から除外されます。

テンプレートによる選択適用処理の作成

DNA ファイルの一部だけを適用する場合があります。マイグレーションの適用側として作成したテンプレートを使用して選択適用を自動化するには、以下の手順に従います。

1. DNA ファイルに保存するテンプレートを作成します。
テンプレートには、ソース マシンから DNA ファイルに保存するすべての項目を含めます。
2. デスティネーション用に別のテンプレートを作成します。
デフォルトでは、DNA ファイルに保存されたすべての項目が選択され、デスティネーションマシンに適用されるため、別のテンプレートを作成する必要があります。独自の宛先テンプレートを作成するには、適用に使用するテンプレートを開き、DMM Template Editor の左側のペインのツリーにある [ユーザ]、[システム]、[アプリケーション]、[ファイル]、および [フィルタ] ブランチから宛先に適用しない項目を削除します。
3. DNA ファイルから適用するユーザ、アプリケーション、またはファイルを選択するには、ブランチをクリックし、[リダイレクト] タブをクリックして、DMM Template Editor の左側のペインでリダイレクトを定義します。
4. このテンプレートを別の名前で作成します。
5. [スタート] メニューから DMM Options Editor を開きます。

DMM Options Editor が開きます。

6. [ファイル] メニューから [開く] を選択するか、[開く] ツールバー ボタンをクリックします。CA DMM がインストールされているフォルダに移動し、DDNAOptions.dox ファイルを選択します。
7. DesktopDNA.exe を実行していない場合は、[ファイル] メニューから [新規作成] を選択します。
8. DMM Options Editor の左側のペインで [詳細設定] をクリックします。

DMM Options Editor の右側のペインに DMM の詳細オプションが表示されます。

9. [アイテムを選択しないで DNA ファイルを開く] オプションを探します。このオプションを True に設定すると、マイグレーション対象の項目が選択されていない状態で DNA ファイルがロードされます。この場合は、テンプレートを開き、テンプレートで選択した項目のみを適用できます (選択適用)。

このオプションはデフォルトで False に設定されています。

10. [アイテムを選択しないで DNA ファイルを開く] チェック ボックスをオンにして、設定を True に変更します。
11. DDNAOptions.dox ファイルを別の名前で作成します。
12. デスティネーションマイグレーションを実行する場合は (既存の DMM オプションファイルを編集するのではなく新規 DMM オプションファイルを作成した場合)、コマンドラインでこの新しい DMM オプションファイルを指定する必要があります。構文は以下のとおりです。

```
"Path to the DesktopDNA.exe file" /O "Path and file name of the new DDNAOptions.dox file"
```

DMM コマンドラインの作成および使用方法については、「コマンドラインインターフェース」を参照してください。

複数のテンプレートのマージまたは選択

多種多様なマイグレーションニーズを持つ大企業のテンプレートを作成するときは、企業全体のマスタテンプレートを作成してから、事業単位または部門ごとに分割した方が簡単な場合があります。マスタテンプレートを他のテンプレートとマージして1つのテンプレートにすることも、コマンドラインで2つのテンプレートをまとめて指定することもできます。どちらの方法も加算的です。マイグレーションニーズに最適な方法を選択してください。2つの方法の詳細を以下に示します。

テンプレートのマージ

テンプレートをマージするには、以下の手順に従います。

1. 事業単位ごとにマイグレーションが必要なアイテムのみを含むテンプレートファイルを作成します。
2. 既存のテンプレートからマスタ テンプレートを作成する場合は、以下の手順に従ってテンプレートを保存します。
 - [オプション] - [オプションの保存] を選択します。
 - [オプションの保存] ダイアログ ボックスで、マスタ テンプレートに保存するアイテム以外のすべてのアイテムをオフにします。
3. テンプレートを保存します。
4. 事業単位または部門の詳細を含むテンプレート ファイルを作成します。

このテンプレートには、事業単位に固有の追加のシステム設定またはアプリケーション設定、およびデータを含める必要があります。

5. 包括的なテンプレート ファイルを保存する前に、[ファイル] - [マージ] を選択します。

[ファイルを開く] ダイアログ ボックスでマスタ テンプレートの場所に移動します。マージするテンプレートを選択すると、マスタ テンプレートと事業単位レベルの選択項目がマージされます。
6. このファイルを保存して、事業単位または部門レベルのマイグレーションに使用します。

複数のテンプレートの選択

コマンドラインで複数のテンプレートを指定するには、以下の手順に従います。

1. マイグレーション時に CA DMM ユーザ インターフェイスでテンプレートを選択するか、自動処理の一部としてコマンドラインを作成するかを決定します。
 - マイグレーション時に CA DMM ユーザ インターフェイスでテンプレートを選択する場合は、CA DMM ヘルプ ファイルを参照し、目次から以下の項目を選択してください。

「CA Desktop Migration Manager」 - 「遅延マイグレーション」 - 「DNA ファイルの作成」
- 「[開始] タブ」 - 「テンプレート ファイルを開く」

- 自動処理の一部として、コマンドラインで複数のテンプレートを指定する場合は、以下の手順に従います。
2. 以下の例のように、テンプレート コマンドライン スイッチ `/T` を複数回使用します。

```
/D "C:¥MyDNAFile.dna" /T "C:¥Template 1.dtf" /T "C:¥Template 2.dtf" /T  
"C:¥Template 3.dtf"
```

この例では、テンプレートのいずれかに競合する情報が含まれている場合の優先順位は、**Template 3**、**Template 2**、**Template 1** の順になります。

第 3 章：復元の管理

DMM Always Current Scheduler では、企業の DNA ファイルを定期的に格納して、予期しないハードウェア障害などの問題が発生した場合に、ユーザが DNA ファイルの最新バージョンを使用してシステムを復元できるようにすることができます。

DMM タスクのスケジュール

DMM ストレージタスクをスケジュールするには、以下の手順に従います。

1. [スタート] メニューから **DMM Always Current Scheduler** を起動します。

DMM Always Current Scheduler が開きます。

2. [次へ] をクリックして、ウィザードの手順に従います。

ウィザードでは以下の設定を行います。

- タスクを作成して、格納する DNA を指定する。
- テンプレートの名前、タスクを実行するユーザの名前など、タスクの詳細を指定する。

注: タスクを実行するユーザの名前を指定するとき、CA DMM ではレジストリに設定されているユーザ名が表示されます。ユーザ名（ドメインとパスワードを含む）の情報が正しいことを確認してください。情報が間違っていると、ジョブが実行されません。また、定期的にパスワードを変更する必要がある場合は、このタスクのパスワードも変更する必要があります。パスワードを変更しないと、スケジュールされたタスクは実行できません。

- タスクの実行頻度を指定する。
 - タスクを実行する日時を指定する。
3. タスクの詳細を確認してから、[完了] をクリックします。

タスクの初回実行時に、指定した DNA ファイルが作成されます。スケジュールされているタスクが次に実行されるときに、DNA ファイルのリビジョンが作成されます。

タスクの実行時には、タスクを再スケジュールするかまたはキャンセルするかを選択できるダイアログボックスが表示されます。再スケジュールを選択した場合は、DMM Always Current Scheduler が開いて別の時間を選択できます。キャンセルを選択した場合、スケジュールされている次の時間までタスクは実行されません。

注: DMM Always Current Scheduler によって、設定を含む XML ファイル（拡張子は .dmx）が作成されます。デフォルトでは、このファイルはマイドキュメントディレクトリに保存されます。このファイルは DMM Options Editor で開いて、必要に応じて変更することができます。

スケジュール済みの DMM タスクの表示

DMM Always Current Scheduler で作成したスケジュール済みタスクを変更するには

1. [スタート] メニューから Windows スケジューラを開きます。
Windows の [タスク] ダイアログボックスが表示され、スケジュール済みの DMM タスクが表示されます。
2. スケジュール設定を変更するタスクをダブルクリックします。
Windows のスケジューラが開き、スケジュール済みのタスクを変更できます。
3. 変更が完了したら [OK] をクリックします。
タスクへの変更内容が保存されます。

ストレージから DNA を適用

PC に保存済みの DNA ファイルを適用するには

1. [スタート] メニューから、[ストレージから DNA を適用] コマンドを実行します。
CA DMM ウィザードの [DNA ファイル オプション] ページが表示されます。
2. 以下のオプションから選択します。

編集

適用する設定を選択します。CA DMM ウィザードを使用して、適用する設定、ファイルとフォルダ、またはフィルタを個別に選択できます。

デスティネーション

[デスティネーション] タブが開きます。DNA ファイルに格納されているすべてを適用できます。必要に応じて、設定、ファイルとフォルダ、またはフィルタのリダイレクトも定義できます。

[リビジョン]

別の DMM リビジョンを選択します。前のバージョンの DNA ファイルを選択し、適用する設定、ファイルとフォルダ、またはフィルタを個別に選択して、特定の時点までロールバックできます。

3. CA DMM ウィザードの残りの手順に従って、保存済み DNA の適用を完了します。

注: /RD パラメータを使用して、リビジョンを適用できます。コマンドラインパラメータおよび使用例の詳細については、「リファレンスガイド」を参照してください。

第 4 章：時間とリソースを最適化するヒント

これ以降のトピックでは、企業環境に最適なマイグレーション処理を作成する方法について説明します。各トピックには、マイグレーションプロセスのパフォーマンスを最適化するためのヒントが説明されています。

複数ユーザのマイグレーション時間の短縮

マイグレーションの内容によっては、DMM オプションファイルの [詳細設定] タブで [選択したすべてのユーザの設定に基づいてスクリプトを検出する] オプションを **False** に変更すると、マイグレーションの速度が速くなる場合があります。デフォルトでは、この設定は **True** になっています。CA DMM では、このオプションを **False** に設定しないかぎりマイグレーションを行う各ユーザのスクリプトが検出されます。

マイグレーションを行うすべてのユーザのユーザ プロファイルのロードは、時間のかかる処理です。CA DMM は後でマイグレーション処理に使用するために、アカウントがドメインまたは **Active Directory** に存在することを、ソースシステムで検証する必要があります。次に、マイグレーションを行う各ユーザのプロファイルをロードして、検出した各ユーザのスクリプトを順番に検証する必要もあります。

CA DMM は各アカウントが存在することを確認し、必要に応じて選択されたユーザのユーザ アカウントまたはプロファイルをデスティネーションマシンに作成する必要があります。次に、CA DMM は、デスティネーションで各ユーザのアプリケーションスクリプトを検出して、アプリケーションのデスティネーションパスを解決する必要があります。アプリケーションの検出は、デスティネーションで DNA ファイルを開いたとき、または [アプリケーションのデスティネーション] ページを開いたときに実行されます。

その一方、現在のユーザのみをマイグレートする場合は、以下の理由により検出速度はより高速になります。

- 現在のユーザのマイグレーションでは、ロード済みのユーザ プロファイルのみが使用される
- 現在のユーザは既に解決済みで、他のユーザを検証する必要がない
- 各スクリプトに含まれている **Detect** 関数は、1 つのユーザ プロファイルに対してそれぞれ 1 回ずつ実行するだけでよい。他のユーザのユーザ プロファイルはロードされない

現在のユーザを検出するほうが高速に実行されるため、ほとんどの場合、複数のユーザを検出する代わりに現在のユーザを検出します。これは、大部分のスクリプトの **Detect** 関数がローカルコンピュータのレジストリ設定に基づいているために、ユーザ間で差が生じないためです。さらに、ほとんどのスクリプトの **Detect** 関数は検出中にローカルコンピュータの状態を変更しません。

例外として、以下の場合には複数のユーザの検出が必要になります。

- 現在のユーザ設定とショートカットを使用して、アプリケーションパスの解決、およびシステム機能の検出を行う一部のスクリプト（以下のリストに示す）。ショートカットとアプリケーションパスを解決するには、各ユーザをロードする必要があります。
- 一部のスクリプトでは、リアルタイムマイグレーションでソースからデスティネーションに設定をマイグレートするためにローカルコンピュータの状態が変更されます。

設定をマイグレートするために複数のユーザの検出を行うスクリプトは以下のとおりです。

- **Internet Explorer** スクリプト。各ユーザのユーザ証明書をエクスポートします。
- **ダイヤルアップシステム** スクリプト。レジストリ内にある各ユーザの電話帳の情報をマイグレートします。
- **プリンタシステム** スクリプト。プリンタ設定をマイグレートします。プリンタシステムスクリプトはソースシステムのユーザ固有のファイルに依存します。

Internet Explorer の設定、**ダイヤルアップシステム** 設定、複数のユーザのプリンタをマイグレートせず、リアルタイムマイグレーションも実行しない場合は、複数のユーザの検出オプションをオフにして **CA DMM** のパフォーマンスを向上させることができます。

複数のユーザの検出オプション

以下のオプションは、マイグレーションの実行時に [選択したすべてのユーザの設定に基づいてスクリプトを検出する] オプションをオフにするために追加されました。手持ちの情報を使用してマイグレーション処理を評価し、マイグレーションの結果に影響が出ないことを確認できた場合にのみ、このオプションを変更してください。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
選択したすべてのユーザの設定に基づいてスクリプトを検出する	選択したすべてのユーザ、または現在選択している 1 人のユーザのどちらの設定に基づいてシステム スクリプトとアプリケーション スクリプトを検出するかを指定します。	False の場合は、複数ユーザのマイグレーションの検出が処理速度の遅いシステムでより早く完了します。ただし、ユーザ固有の設定の一部がまれに検出されない可能性があります。すべての設定を確実に表示するには、True を指定します。 注: 一部の古いスクリプトを正常に動作させるには、複数のユーザの検出が必要な場合があります。	1 = True 0 = False デフォルト値は True です。	なし

検出スクリプトの設定の変更

DMM Options Editor を使用してデフォルトの検出スクリプトの設定を変更するには、以下の手順に従います。

- 以下の順序でメニューを選択して、DMM Options Editor を開きます。

[スタート] - [プログラム] - [CA] - [Desktop Migration Manager] - [Migration Toolkit] - [DMM Options Editor]

DMM Options Editor が開きます。

2. [開く] ツールバー ボタンをクリックします。CA DMM がインストールされているフォルダに移動し、DDNAOptions.dox ファイルを選択します。
DMM Options Editor で DMM オプションファイルが開きます。
3. [詳細設定] ブランチをクリックします。
DMM Options Editor の右側のペインに詳細設定オプションが表示されます。
4. [選択したすべてのユーザの設定に基づいてスクリプトを検出する] オプションまでスクロールし、チェック ボックスをオフにします。
[選択したすべてのユーザの設定に基づいてスクリプトを検出する] オプションがオフになります。このオプションを変更する前に、変更による影響を検討してください。
5. [保存] ツールバー ボタンをクリックします。
変更が保存されます。
6. DMM Options Editor を閉じます。
次に CA DMM を実行すると、この設定は使用されず、マイグレーション中にユーザの設定に基づいたスクリプトは検出されません。

ローカルドライブからの CA DMM へのアクセス

一般的にネットワークはハードディスク ドライブほど高速ではなく、ボトルネックや予想外のトラフィックによりマイグレーションの速度が制限されることがあります。リアルタイムマイグレーション（ネットワーク経由でデータを送る）を実行する場合、または遅延マイグレーション（ネットワーク上に DNA ファイルを作成する）を実行する場合のいずれにおいても、CA DMM を、インストールされているローカルシステムのハードディスク ドライブから実行して、パフォーマンスを向上させることができます。

スクリプト ディレクトリ オプション

カスタマイズしたスクリプトまたは企業で作成したスクリプトがある場合は、カスタム スクリプトをマイグレーションプロセス用にインストールすることができます。CA DMM をローカルにインストールしている場合でもインストールは可能です。

カスタム スクリプトをインストールする方法は 2 つあります。

1. CA DMM を直接インストールする（DMM Director を使用しない）
2. CA DMM を DMM Director のプロセスの内部でインストールする

カスタム スクリプトの直接インストール

CA DMM をインストールして、カスタム スクリプトをインストールするには、以下の手順に従います。

1. インストール CD から CA DMM のインストール フォルダをコピーしたディレクトリを検索します。このフォルダの名前は `DDNAInst` です。
2. `DDNAInst` ディレクトリに `System Scripts` と `Application Scripts` という 2 つのサブフォルダを作成します。
3. `DDNAInst` ディレクトリに作成した `System Scripts` サブフォルダにカスタム システム スクリプトをコピーします。
4. `DDNAInst` ディレクトリに作成した `Application Scripts` サブフォルダにカスタム アプリケーション スクリプトをコピーします。

次回、変更した `DDNAInst` ディレクトリからインストーラを実行すると、カスタム スクリプトが標準 DMM スクリプトとマージされ、システムにインストールされます。名前が重複するスクリプトがある場合、標準 DMM スクリプトが同じ名前のカスタム スクリプトに置き換えられます。

インストーラのユーザ インターフェースを使用して CA DMM をインストールすると、インストーラのコンポーネントを選択するページに [スクリプト] コンポーネントが表示されます。デフォルトでは、[スクリプト] がインストール対象として選択されています。カスタム インストールを選択する場合、[スクリプト] の選択を解除できます。コンポーネントを選択するページで [スクリプト] の選択を解除すると、適切なディレクトリに追加したスクリプトのみがインストールされます。定義したカスタム スクリプトのみをインストールする場合は、[スクリプト] の選択を解除してください。

DMM Director を使用したカスタム スクリプトのインストール

DMM Director のプロセスを使用して、カスタム スクリプトをインストールするには、以下の手順に従います。

1. DMM Director が `DirectorMigration` フォルダを作成したディレクトリを検索します。
2. `ddnarun` ディレクトリには、`System Scripts` と `Application Scripts` という 2 つのサブフォルダがあります。
3. `DirectorMigration\ddnarun\system scripts` ディレクトリにある `System Scripts` フォルダにカスタム システム スクリプトをコピーします。
4. `DirectorMigration\ddnarun\application scripts` ディレクトリにある `Application Scripts` フォルダにカスタム アプリケーション スクリプトをコピーします。

次回、マイグレーションを実行する前に、CA DMM をローカルにインストールするように指定する DMM Director のプロセスを実行すると、インストーラは、2 つのディレクトリに入れたスクリプトを標準の CA DMM スクリプトとマージします。名前が重複するスクリプトがある場合、標準 DMM スクリプトが同じ名前のカスタム スクリプトに置き換えられます。

ローカルドライブからのファイルの作成と適用

ソース システムのハードディスク ドライブに十分な空き容量がある場合、ハードディスク上に DNA ファイルを作成できます。ファイルを作成したら、そのファイルをネットワーク上にコピーまたは移動します。通常は、CA DMM で DNA ファイルをネットワーク上に直接保存するよりも処理が速くなります。

適用時には、デスティネーション システムのハードディスク ドライブに大量の空き容量があれば、DNA ファイルをローカルディスクにコピーします。ローカルコンピュータから CA DMM を起動し、DNA ファイルのローカル コピーを使用します。

圧縮の無効化

圧縮設定は、作成される DNA ファイルの圧縮方法を決定します。CA DMM は、標準の PKZip ファイル圧縮テクノロジーを使用して、DNA ファイルのデータを圧縮します。ファイルの内容によっては圧縮率が低くなる場合があります。圧縮済みのファイルを再圧縮すると時間がかかり、再圧縮前のファイルよりサイズが大きくなることもあります。

圧縮オプションは以下のとおりです。

なし

このオプションを選択すると、DNA ファイルは圧縮されません。ネットワークがトラフィックの増加に対応可能な環境でリアルタイム マイグレーションを実行する場合に最適です。

[最速]

このオプションを選択すると、圧縮可能な最小サイズをチェックせずに、DNA ファイルを最速の方法で圧縮します。

[最小]

このオプションを選択すると、DNA ファイルのサイズが最小になるように圧縮します。

注: 情報の圧縮と解凍には時間がかかります。ハードディスクドライブに十分な空き容量がある場合、DNA ファイルを作成する前に圧縮を無効にするとパフォーマンスを最適化できます。

CA DMM ユーザ インターフェースを使用する場合は、以下の手順に従います。

1. [オプション] - [設定] を選択します。
[DMM の設定] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. [圧縮] グループ ボックスの [なし] を選択し、[OK] をクリックします。
CA DMM のこのインスタンスで実行するマイグレーションでは、定義した圧縮設定が使用されます。

オプション ファイルを使用する場合は、以下の手順に従います。

1. [スタート] メニューから DMM Options Editor を開きます。
DMM Options Editor が開きます。
2. [ファイル] メニューから [開く] を選択するか、[開く] ツールバー ボタンをクリックします。CA DMM がインストールされているフォルダに移動し、DDNAOptions.dox ファイルを選択します。
注: DesktopDNA.exe を実行していない場合は、[ファイル] - [新規] をクリックします。
3. DMM Options Editor の左側のペインで [一般] をクリックします。
DMM Options Editor の右側のペインにすべての一般オプションが表示されます。
4. [圧縮] オプションを探します。
このオプションは、DNA ファイルの作成時に使用する圧縮レベルを決定します。有効な値は、[なし]、[最速]、[最小] です。デフォルト値は、[最速] です。
5. 設定を [なし] に変更します。
6. DDNAOptions.dox ファイルを保存します。
圧縮設定はなしに設定されます。

検証の無効化

検証オプションには、DNA ファイルの内容を元のソース ファイルおよびレジストリ アイテムと比較して検証するかどうかを指定します。信頼性の高いネットワークを使用している場合は、検証を無効にできます。

注: 検証オプションはデフォルトで無効になっています。

検証を無効にするには、以下の手順に従います。

1. [スタート] メニューから **DMM Options Editor** を開きます。
DMM Options Editor が開きます。
2. [ファイル] メニューから [開く] を選択するか、[開く] ツールバー ボタンをクリックします。CA DMM がインストールされているフォルダに移動し、**DDNAOptions.dox** ファイルを選択します。
注: DesktopDNA.exe を実行していない場合は、[ファイル] - [新規] をクリックします。
3. DMM Options Editor の左側のペインで [詳細設定] をクリックします。
DMM Options Editor の右側のペインにすべての詳細設定オプションが表示されます。
4. [DNA ファイルを検証する] を探します。
このオプションを **True** に設定すると、DNA ファイルにチェックサムが追加されます。これにより、DMM Explorer を使用して確実検証を実行でき、また遅延マイグレーションプロセスの最後に CA DMM で高速検証が実行されます。
このオプションはデフォルトで **False** に設定されています。
[DNA ファイルを検証する] オプションがオンになっている場合は、チェック ボックスをオフにします。
5. DDNAOptions.dox ファイルを保存します。
検証設定が無効になります。

ローカルドライブへのアンドゥ ログの作成

マイグレーションを複数回実行すると、アンドゥ ログのサイズが非常に大きくなる場合があります。空き容量に余裕がある場合は、ローカルドライブをアンドゥ ファイルの作成場所として指定すると効果的です。マイグレーションが完了してアンドゥ ファイルが作成されたら、作成されたファイルをネットワーク上に移動できます。

CA DMM ユーザ インターフェースを使用する場合は、以下の手順に従います。

1. [オプション] - [ログ] を選択します。
[ログ オプション] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. アンドゥ ファイルを保存するパスを変更し、[OK] をクリックします。
アンドゥ ファイルはデフォルトでローカルのマイ ドキュメント フォルダに保存されます。

オプションファイルを使用する場合は、以下の手順に従います。

1. [スタート] メニューから **DMM Options Editor** を開きます。
DMM Options Editor が開きます。
2. [ファイル] メニューから [開く] を選択するか、[開く] ツールバー ボタンをクリックします。CA DMM がインストールされているフォルダに移動し、**DDNAOptions.dox** ファイルを選択します。

注: DesktopDNA.exe を実行していない場合は、[ファイル] - [新規] をクリックします。
3. DMM Options Editor の左側のペインにある [ログ] ノードを展開します。
すべてのログ サブノードが表示されます。
4. [アンドゥ ログ] サブノードを選択します。

DMM Options Editor の右側のペインにアンドゥ ログ オプションが表示されます。
5. [アンドゥ ログの保存先のパス] オプションを変更します。
6. **DDNAOptions.dox** ファイルを保存します。
アンドゥ ログ ファイルのパスが変更されます。

アンドゥ ログの無効化

アンドゥ ログのサイズが非常に大きくなる場合があります。マイグレーションの実行前にシステムのバックアップ イメージを作成している場合は、アンドゥ ログ オプションをオフにします。

アンドゥ ログの無効化

CA DMM ユーザ インターフェースを使用する場合は、以下の手順に従います。

1. [オプション] - [ログ] を選択します。
[ログ オプション] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. [アンドゥ ファイル] グループ チェック ボックスをオフにして、アンドゥ ファイルの作成を無効にし、[OK] をクリックします。

オプションファイルを使用する場合は、以下の手順に従います。

1. [スタート] メニューから **DMM Options Editor** を開きます。
DMM Options Editor が開きます。
2. [ファイル] メニューから [開く] を選択するか、[開く] ツールバー ボタンをクリックします。CA DMM がインストールされているフォルダに移動し、**DDNAOptions.dox** ファイルを選択します。
注: DesktopDNA.exe を実行していない場合は、[ファイル]-[新規] をクリックします。
3. DMM Options Editor の左側のペインにある [ログ] サブノードを展開します。
すべてのログ サブノードが表示されます。
4. [アンドゥ ログ] サブノードを選択します。
DMM Options Editor の右側のペインにアンドゥ ログ オプションが表示されます。
5. [アンドゥ ログを作成する] オプションを変更します。このオプションは、デフォルトでオンになっています。このオプションをオフにして、アンドゥ ログ ファイルの作成を無効にします。
6. **DDNAOptions.dox** ファイルを保存します。
アンドゥ ログ ファイルの作成が無効になります。

ドメイン ユーザ プロファイルの認証の無効化

[ドメイン ユーザ プロファイルの認証] オプションをオフにして、パフォーマンスを最適化することができます。このオプションを無効にすると、マイグレーション用に選択されたドメイン ユーザ プロファイルが、そのドメイン マネージャによって認証されません。

ドメイン ユーザ プロファイルの認証を無効にするには、以下の手順に従います。

1. [スタート] メニューから **DMM Options Editor** を開きます。
DMM Options Editor が開きます。

2. [ファイル] メニューから [開く] を選択するか、[開く] ツールバー ボタンをクリックします。CA DMM がインストールされているフォルダに移動し、DDNAOptions.dox ファイルを選択します。

注: DesktopDNA.exe を実行していない場合は、[ファイル]-[新規] をクリックしてファイルを作成します。

3. DMM Options Editor の左側のペインで [セキュリティ マイグレーション] をクリックします。

DMM Options Editor の右側のペインにセキュリティ マイグレーション オプションが表示されます。

4. [ドメイン ユーザ プロファイルの認証] オプションを探します。

このオプションを使用すると、ドメイン サーバはドメイン ユーザ プロファイルを認証することができます。有効な値は、[認証しない]、[常に認証]、および [クロスオーバー ケーブル経由のマイグレーションでは認証しない] です。CA DMM のデフォルトは、[クロスオーバー ケーブル経由のマイグレーションでは認証しない] です。

5. 設定を [認証しない] に変更します。

6. DDNAOptions.dox ファイルを保存します。

ドメイン サーバは、ドメイン ユーザ プロファイルを認証しません。

マニフェストログの無効化

マニフェストログ ファイルは、マイグレーションの詳細な内容を記録する XML ベースのファイルです。マニフェストログ オプションで、DNA ファイルを格納または適用する際にマニフェストログを作成するかどうかを決定します。パフォーマンスを向上させるには、このオプションをオフにしてください。

マニフェストログを無効にするには、以下の手順に従います。

1. [スタート] メニューから DMM Options Editor を開きます。

DMM Options Editor が開きます。

2. [ファイル] メニューから [開く] を選択するか、[開く] ツールバー ボタンをクリックします。CA DMM がインストールされているフォルダに移動し、DDNAOptions.dox ファイルを選択します。

注: DesktopDNA.exe を実行していない場合は、[ファイル] - [新規] をクリックしてファイルを作成します。

3. [ログ] をクリックし、DMM Options Editor の左側のペインにある [マニフェスト ログ] をクリックします。

DMM Options Editor の右側のペインにマニフェスト ログ オプションが表示されます。

4. [マニフェスト ログを作成する] オプションを探して、[マニフェスト ログを作成する] チェック ボックスがオフになっていることを確認します。

5. DDNAOptions.dox ファイルを保存します。

マニフェスト ログ ファイルの作成が無効になります。

デバッグ ログの無効化

デバッグ ログ オプションでは、DNA ファイルを移動先コンピュータに適用する際にデバッグ ログを作成するかどうかを指定できます。ただし、パフォーマンスを最適化するには、このオプションをオフにしてください。

デバッグ ログを無効にするには、以下の手順に従います。

CA DMM ユーザー インターフェイスを使用している場合は、以下の手順に従います。

1. [オプション] - [ログ] を選択します。

[ログ オプション] ダイアログ ボックスが表示されます。

2. [詳細設定] をクリックします。

[ログの詳細オプション] ダイアログ ボックスが表示されます。

3. [デバッグ ログ] グループ チェック ボックスがオフになっていることを確認します。

これは、デバッグ ログ ファイルの作成を無効にします。

4. [OK] をクリックします。

オプション ファイルを使用している場合は、以下の手順に従います。

1. [スタート] メニューから DMM Options Editor を開きます。

DMM Options Editor が開きます。

2. [ファイル] メニューから [開く] を選択するか、[開く] ツールバー ボタンをクリックします。CA DMM がインストールされているフォルダに移動し、DDNAOptions.dox ファイルを選択します。

注: DesktopDNA.exe を実行していない場合は、[ファイル] - [新規] をクリックします。

3. DMM Options Editor の左側のペインで、[ログ] - [デバッグ ログ] をクリックします。

DMM Options Editor の右側のペインにすべてのデバッグ ログ オプションが表示されます。

4. [デバッグ ログを作成する] オプションがオフになっていることを確認します。
5. DDNAOptions.dox ファイルを保存します。
デバッグ ログ ファイルの作成が無効になります。

ネットワーク ログの無効化

[ネットワーク ログ] オプションは、リアルタイム マイグレーションの実行時にネットワーク ログを作成するかどうかを決定します。ただし、パフォーマンスを最適化するには、このオプションをオフにしてください。

ネットワーク ログを無効にするには、以下の手順に従います。

CA DMM ユーザ インターフェイスを使用している場合は、以下の手順に従います。

1. [オプション] - [ログ] を選択します。
[ログ オプション] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. [詳細設定] をクリックします。
[ログの詳細オプション] ダイアログ ボックスが表示されます。
3. [ネットワーク ログ] グループ チェック ボックスがオフになっていることを確認します。
これは、ネットワーク ログ ファイルの作成を無効にします。
4. [OK] をクリックします。

オプション ファイルを使用している場合は、以下の手順に従います。

1. [スタート] メニューから DMM Options Editor を開きます。
DMM Options Editor が開きます。
2. [ファイル] メニューから [開く] を選択するか、[開く] ツールバー ボタンをクリックします。CA DMM がインストールされているフォルダに移動し、DDNAOptions.dox ファイルを選択します。

注: DesktopDNA.exe を実行していない場合は、[ファイル] - [新規] をクリックします。

3. DMM Options Editor の左側のペインで、[ログ] - [ネットワーク ログ] をクリックします。

DMM Options Editor の右側のペインにすべてのネットワーク ログ オプションが表示されます。

4. [ネットワーク ログを作成する] オプションがオフになっていることを確認します。

5. DDNAOptions.dox ファイルを保存します。

ネットワーク ログ ファイルの作成が無効になります。

イベント ログ レベルの設定

イベント ログ レベルでは、イベント ログに記録または収集する詳細レベルを指定できます。パフォーマンスを最適化するには、ログ レベルを [エラー] に設定してください。

イベント ログ レベルを設定するには、以下の手順に従います。

CA DMM ユーザ インターフェイスを使用している場合は、以下の手順に従います。

1. [オプション] - [ログ] を選択します。
[ログ オプション] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. [イベント ログ] エリアで選択可能な [レベル] ドロップダウン リストから [エラー] を選択します。
3. [OK] をクリックします。

オプション ファイルを使用している場合は、以下の手順に従います。

1. [スタート] メニューから DMM Options Editor を開きます。
DMM Options Editor が開きます。
2. [ファイル] メニューから [開く] を選択するか、[開く] ツールバー ボタンをクリックします。CA DMM がインストールされているフォルダに移動し、DDNAOptions.dox ファイルを選択します。

注: DesktopDNA.exe を実行していない場合は、[ファイル] - [新規] をクリックします。

3. DMM Options Editor の左側のペインで、[ログ] - [イベントログ] をクリックします。

DMM Options Editor の右側のペインにすべてのイベント ログ オプションが表示されます。

4. [イベント ログ レベル] オプションを探します。

有効な値は、[エラー]、[警告]、および [情報] です。デフォルトは、[エラー] です。

5. [エラー] オプションがオンになっていることを確認します。

6. DDNAOptions.dox ファイルを保存します。

イベント ログ レベルが [エラー] にセットされます。

自己解凍ファイルを作成しない

自己解凍 DNA ファイルを作成すると、標準の DNA ファイルを作成するときよりも時間がかかります。自己解凍機能を必要とせず、パフォーマンスを重視する場合は、DNA ファイルを標準の形式で保存してください。

グループ メンバシップのマイグレーションの無効化

CA DMM では、デフォルトでグループ メンバシップがマイグレートされます。グループ セキュリティのマイグレーションが必要ない場合は、DMM オプション ファイルでこのオプションを無効にします。

グループ メンバシップのマイグレーションを無効にするには、以下の手順に従います。

1. [スタート] メニューから DMM Options Editor を開きます。

DMM Options Editor が開きます。

2. [ファイル] メニューから [開く] を選択するか、[開く] ツールバー ボタンをクリックします。CA DMM がインストールされているフォルダに移動し、DDNAOptions.dox ファイルを選択します。

注: DesktopDNA.exe を実行していない場合は、[ファイル] - [新規] をクリックします。

3. DMM Options Editor の左側のペインで [セキュリティ マイグレーション] をクリックします。

DMM Options Editor の右側のペインにすべてのセキュリティ マイグレーション オプションが表示されます。

4. [グループ メンバシップをマイグレートする] オプションをオフにします。
5. DDNAOptions.dox ファイルを保存します。

グループ メンバシップのマイグレーションが無効になります。